

こうじ 工事の げんば 現場より

旧矢筈原家住宅 保存修理事業

番外；仏壇編

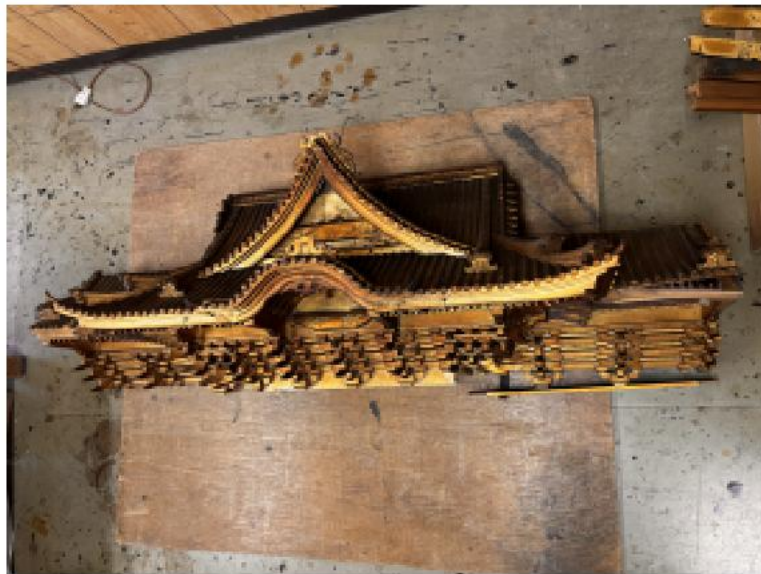
今はこんな様子だよ。



建物の修理が着実に進んでいますが、外部に持ち出して修理を行っている仏壇も順次作業を進めています。仏壇は旧矢筈原家住宅の旧所在地である岐阜県の近くで、今でも伝統的な仏壇の製作・修理を行っている石川県金沢市の職人に修理を依頼しました。経年劣化による彫刻部材のはずれ、全体の歪み等を修理する計画で、伝えられてきた歴史を尊重し、あえて漆の塗り替えや金箔の貼り直しは行わない方針です。本体の歪みの修理に際して解体を行ったところ、制作年を記した墨書が確認されました。昭和30年代の民具調査で発見された記録がありその存在は知られていましたが、今回の修理前の事前調査では確認しきれなかった箇所です。仏壇は建物が造られた後に収められたことが痕跡より判明しており、この年代記録により建物はそれより古い時代に造られたことが明瞭になりました。



修理前の様子



解体し適宜清掃を実施します。



彫刻の外れた部品は元の位置に取り付けます。



仏壇下部の引出しの下を解体したところ、墨書が確認されました。昭和30年代の調査の時の記録のとおり「寛政十二庚申十一月下旬」と記されています。寛政12年＝西暦1800年、今から226年前に作られたという記録です。作者と思しき人名も記載されています。

